Amifiable Inc.

アミフィアブル株式会社

会社概要 COMPANY PROFILE

Powered by MLET.Ⅱ Machine Learning Engine for Test

人智とAIで未来をつくる

アミフィアブルにはAIに精通した技術者が多数在籍しており
人の可能性をAIでどこまで引き出せるかを日々追求しています

その結果、どこまでなら自動化が可能で
どこからは人の手が必要なのかという
「境界線」が見えてきました

AIを適材適所に利活用するにあたって
弊社技術者の経験が非常に参考になると思います

現在、テスト工程の自動化に重点を置いて取り組んでいますが
将来的にはテスト工程だけでなく
設計や開発工程の自動化も進め
設計書を読み込むだけで
コーディング・テストが夜間のうちに自動で行われ
翌日に完了しているような
そんな世界を本気で目指しています

———夢のように聞こえるかもしれません
けれど、私たちはそこまでの道のりを確かに歩んでおり
近い将来には実現できると確信しています

アミフィアブルとともに
テクノロジーの力で
そんな素敵な世界を一緒に切り拓きましょう

目次

課題と背景

1 会社紹介

2 日本が抱えるIT人材不足の問題

3 テスト工程の課題と解決策

MLET. II による課題解決アプローチ

4 MLET. II ソリューション概要

5 MLET. II によるテスト工程自動化

6 MLET. II が実現する高品質テスト

7 MLET. II で期待できる効果

8 MLET. II に関わるAI活用事例

展開・実績

9 サービスラインナップ

10 導入事例

会社紹介

新時代のAIフロンティア集団

———AIコンサルタント・AIエンジニアから成る
AIイノベーターが集うプロチーム

Backgrounds

コンサル（外資系・金融IT）
AI開発者
データサイエンティスト
テストアナリスト

Expertise

課題分析力
PM/PMO
業務ナレッジ
AI Tech

会社名	アミフィアブル株式会社
設立年月	2015年12月
資本金	100百万円
代表者	河村 隆一
所在地	東京都目黒区下目黒1丁目8-1 アルコタワー6階
従業員数	57名（2025年4月1日時点）
事業内容	特許保有のAIアプリ×コンサルティング

Mission

差別化されたAIテクノロジーから
世界に新しい価値を提供する

Value

1.新しい価値観・世界観
2.クライアントファースト
3.チームを尊重する
4.リスクを取り挑戦する。我々は挑戦しないことは恐れるが、失敗することは恐れない
5.我々は、一人一人が価値を生み出すスーパーマン（スーパーウーマン）である

会社紹介

経営層には、コンサルティング会社およびSier出身の豊富な経験・実績を持つエキスパートが結集

河村 隆一

代表取締役 CEO/Founder

金融機関を中心に多数の経営・IT投資プロジェクトを成功に導く

日本IBM、アクセンチュア（上位5%の評価を受賞）、シンプレクス（執行役員）およびITコンサルタントとしてのキャリアを重ねた。
2019年、自身が2015年に設立したアミフィアブルの代表取締役に就任。

長年のプロジェクト経験から、テスト自動化プラットフォームを構想「MLET. II」を開発。

重松 論

取締役 兼 執行役員

金融機関向けITコンサルに長年従事、ユーザ企業のIT責任者も経験

三菱UFJインフォメーションテクノロジー、アクセンチュア、シンプレクスにて、ITコンサルタントとして多数の大規模開発プロジェクトを経験。

また、医療・介護業界向けオンライン人材サービスのエス・エム・エスではIT部門の責任者を務めた。2019年アミフィアブル参画。

大植 英樹

取締役 兼 執行役員

150億円規模の証券システム統合案件をPMOとして牽引

NTTドコモにおいて法人営業や海外ビジネス企画、新サービスの責任者として立ち上げに従事。その後、ビュルガーコンサルティングの執行役員に就任し、証券会社合併に伴うシステム統合のPMOとして150億円規模のプロジェクトを牽引。2023年アミフィアブル参画。

澤田 正憲

取締役 兼 CFO

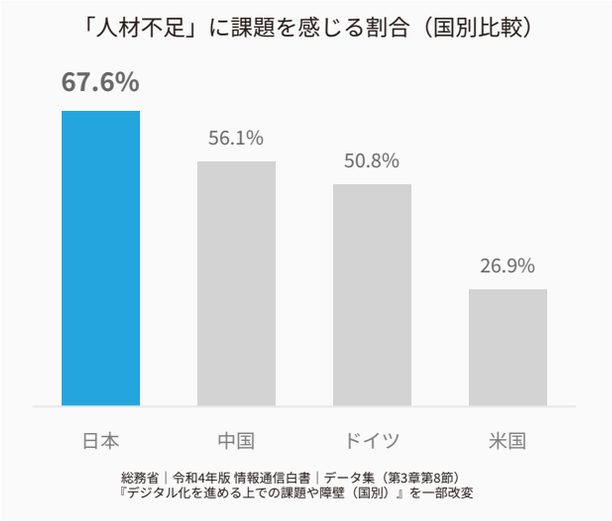
上場企業で20年超CFO。上場準備等、豊富な実務経験

公認会計士。大手監査法人（EY）を経て、シンプレクスで執行役員CFOとして、IPO、昇格上場を主導。次いで上場不動産デベロッパのサンウッドの取締役に就任し、ファイナンスおよび管理部門を統括。事業再生後、大手電鉄によるTOB案件を纏め上げた。2024年アミフィアブル参画。

日本が抱えるIT人材不足の問題

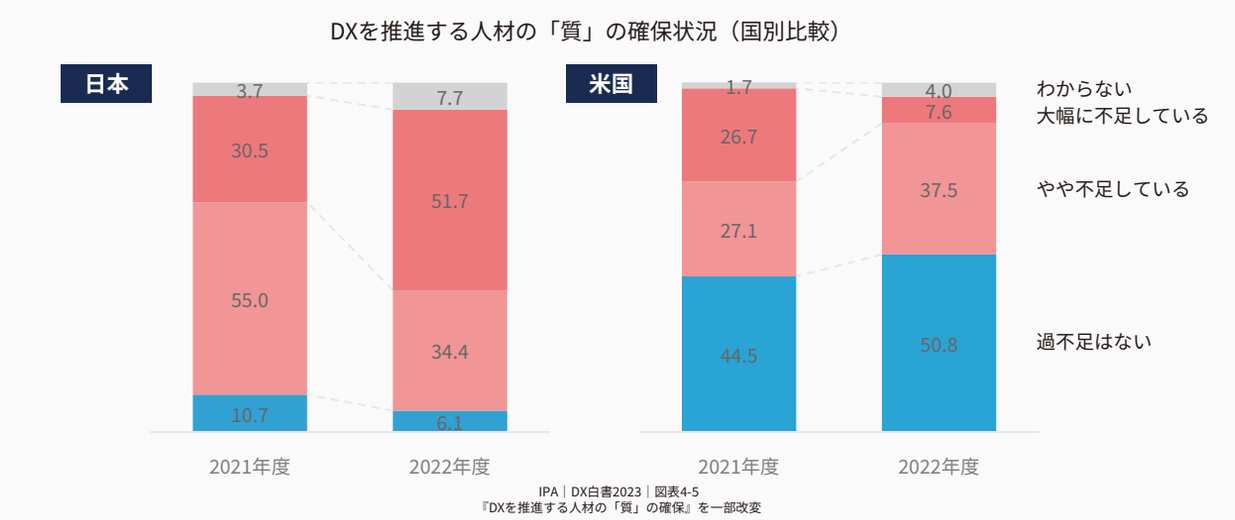
デジタル化を阻む最大要因＝人材不足

総務省『令和4年情報通信白書』によると、67.6%の企業が人材不足を課題として回答



より深刻なのは「質の高い人材の確保」

IPA『DX白書2023』によると、日本では「DXを推進する人材の『質』」が大幅に不足



優秀な人材がテスト工程に割かれている現状

デジタル化を進める開発プロセスの中で、約30%の工数を占めるといわれているテスト工程。
この工程は、テストケースに応じたキー入力や目視チェックなど、一定の反復作業が必要です。
現状、このような反復作業においても熟練のスキルを持ったエンジニアの知見が必要となり、
優秀な人材がテスト工程に塩漬けとなっています。
ソフトウェア品質維持に必要な技術を活かしたくとも、
クリエイティブな業務を進めることを阻んでいる状況です。

テスト工程の課題と解決策

ソフトウェアテストにおける課題

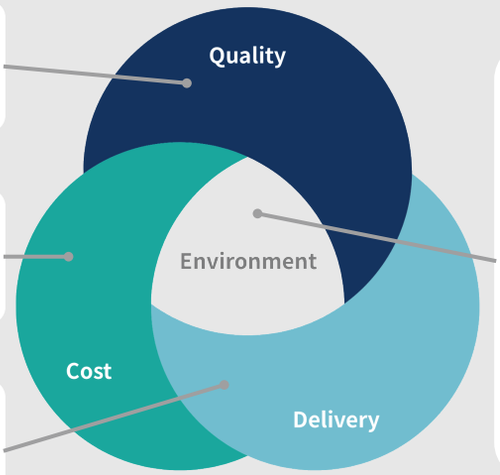
多くの企業が、品質・コスト・納期（Quality・Cost・Delivery）
及び開発・設計環境(Environment）において、様々な課題を抱えています。

課題

Quality
- ✓開発の品質が安定しない

Cost
- ✓調達コスト高騰
- ✓テスト自動化ツールの効果が期待以下

Delivery
- ✓期日までにテストが終わらない



Environment
- ✓優秀なIT人材がテスト工程に塩漬け
- ✓IT技術者が高齢化
- ✓レガシーからの脱却が進められない

様々な原因が複合的に影響

原因

品質確保を人力カバー	属人化したテストプロセス	高度IT人材の不足	設計書記載が不十分	小手先のテスト自動化ツールを部分実装

解決のキーは、AIを活用した“テスト工程”自動化

解決策

テスト設計の自動化	テスト実行から検証まで自動化	導入コンサルティング
設計書情報の補完やテスト仕様書作成、テスト観点の洗い出し、テスト仕様設計等、専門のノウハウが求められる箇所をAIにて対応	テスト現場で一般的に使われているRun Tool、およびテスト管理ツールとAPI連携で自動化	テスト計画立案から実行、効果創出まで、テスト工程自動化の専門家が伴走支援

MLET. II
Machine Learning Engine for Test

AI搭載テスト工程自動化プラットフォーム「MLET. II」でお客様の課題を解決します

MLET. II ソリューション概要

MLET. II
Machine Learning Engine for Test

ソフトウェアテスト向けAI搭載テスト工程自動化プラットフォーム『MLET. II』を活用したソリューション

設計書ベースでテストを自動化

MLET. II は設計書をインプットとして、自動的にテスト仕様を作成。
お客様の既存フォーマットにも柔軟に対応し、最小限の情報があれば現行の設計書をそのまま活用可能。複雑なビジネスロジックも、確実にテスト対象にすることが可能。

シームレスなテスト工程全体の自動化

テスト仕様設計からテストケース生成、スクリプト生成、テスト実行、エビデンス生成まで一連のプロセスを自動化。各種Run tool(Selenium、Appium、UiPath)およびテスト管理ツールと連携。

ノウハウを持ったAIがテスト設計を代行

ソースコードから設計情報を補完し、MLET. II のAIがテスト仕様書を自動生成。
熟練した技術者の知見が必要だった「テスト観点の洗い出し」と「テスト仕様設計」を自動化し、高品質なテストを効率的に実現。

専門家による導入コンサルティング

PoC効果試算・効果創出ロードマップの策定支援を実施。改善施策立案から効果創出まで一貫した支援。お客様の環境に最適なテスト自動化を実現。

ナレッジベース
テスト知見をAIが学習、網羅性の高い検証観点によるテストを実現

MLET. II
当社独自の仕組みで特許取得
高い競争優位性を発揮

テスト工程全体を自動化
統一したテスト仕様の生成により工数削減と品質安定化を実現

お客様の固有ナレッジ
当社テストナレッジ

- テストを設計
- テストケース・データ・スクリプト等を自動生成
- テストを自動実行
- テストの結果検証・レポーティング

蓄積されたナレッジから
高度なテスト工程の自動化を実現する基盤

テスト支援システム、テスト支援方法及びプログラム
【特許第6902814号】

MLET. II によるテスト工程自動化

MLET. II は、テストケース作成から結果検証までを自動化します

	テストプロセス	品質管理ツール A社	テスト自動化ツール B社	MLET. II
計画	計画（プラン）策定	手作業	手作業	手作業
設計	シナリオ設計	手作業	手作業	手作業
設計	テストケース作成	手作業	手作業	自動
設計	テストデータ作成	手作業	手作業	自動
実行	テスト手順書/テストスクリプト作成	手作業	自動	自動
実行	テスト実行	手作業	自動	自動
検証*	エビデンス取得結果検証	自動	手作業	自動
検証*	品質評価	手作業	手作業	手作業

*検証　・・・ ISO/IEC/IEEE 29119の最後のプロセス「レビューと評価」を「検証」としてまとめています

MLET. II が実現する高品質テスト

設計書に記述されたコンポーネントと機能の組み合わせから
テストに必要な観点と技法をMLET. II が判断し、網羅的にテストケースを生成
高品質なソフトウェアテストを実現

【 MLET. II テストケース生成ロジック 】

コンポーネント

代表的な
コンポーネント
に対応

画面

API

DB

CSV

帳票

機能

あらゆる機能に対応

表示

- ラベル
- テーブル

入力

- 各種ボックス
- ボタン
- LINK

処理

- インポート
- エクスポート
- ファイル出力
- 呼び出し
- バッチ

変換

- 値変換
- 読み替え

観点

コンポーネントと
機能に応じたテスト観点
をマッピング

入力チェック

- 値
- 桁
- 形式

操作制御

- キー
- 最大最小表示

エラー制御

- 文字長
- 文字型
- 形式
- 必須/任意

CRUD

- 生成・読取
- 更新・削除

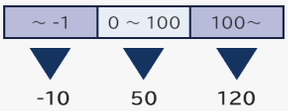
出力チェック

- 表示マッピング
- 画面・値遷移
- 算出結果

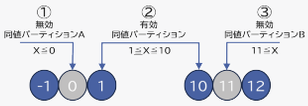
技法

多くの技法を駆使して
テストケースと期待値を
自動生成

同値分割

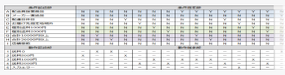


境界値分析



状態遷移

デシジョンテーブル



二因子間網羅

		1	2	3	4
デザイン	X	●	●		
	Y			●	●
色	B	●		●	
	R		●		●
サイズ	S		●	●	
	L	●			●

MLET. II 最大の独自性

AI成長要素

お客様のテスト観点を
恒久的に蓄積可能

MLET. II で期待できる効果

MLET. II は テスト工程の自動化で
QCD+Environment 全方位での効果を生み課題を解決に導きます

課題

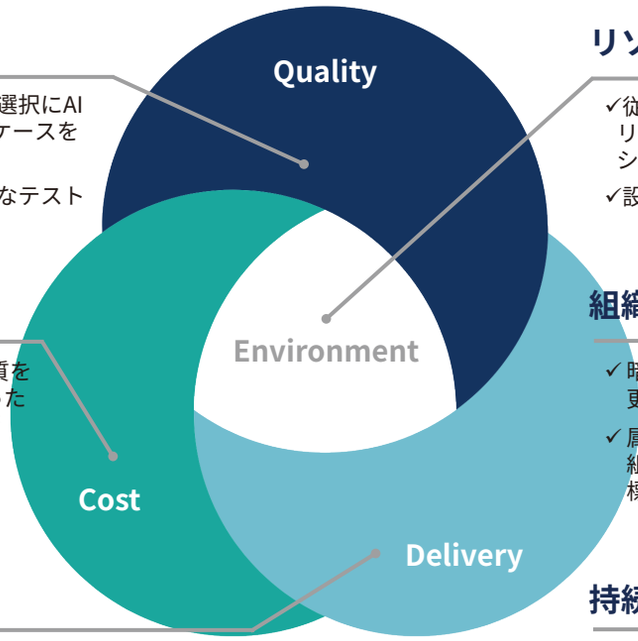
Quality
- ✓開発の品質が安定しない

Cost
- ✓調達コスト高騰
- ✓テスト自動化ツールの効果が期待以下

Delivery
- ✓期日までにテストが終わらない

Environment
- ✓優秀なIT人材がテスト工程に塩漬け
- ✓IT技術者が高齢化
- ✓レガシーからの脱却が進められない

効果



テストケースを網羅
- ✓テスト観点とテスト技法の選択にAIを活用し、網羅的なテストケースを自動生成
- ✓スキルに依存しない均一的なテスト実行が可能

リソース配分最適化
- ✓従来テスト工程に集中していたリソースのピークを分散しシフトレフトを実現
- ✓設計工程含めた全体負荷を平準化

工程全体効率化
- ✓人海戦術で維持していた品質をテスト工程のノウハウを持ったMLET. II が代行して自動実行
- ✓テスト工程全体のリソースコストを削減

組織知の体系化・継承
- ✓暗黙知として蓄積されていた情報や、更新が滞っていた設計書を整備
- ✓属人化されていた開発プロセスを、組織の明示的な資産として標準化

24/365自動実行
- ✓夜間・休日など開発の合間の時間を有効活用
- ✓24/365テスト自動実行可能
- ✓開発リードタイム短縮に有効

持続可能な品質保証
- ✓システム改変時、設計書の更新だけでテスト仕様およびテストスクリプトが自動更新
- ✓長期的な品質担保が可能

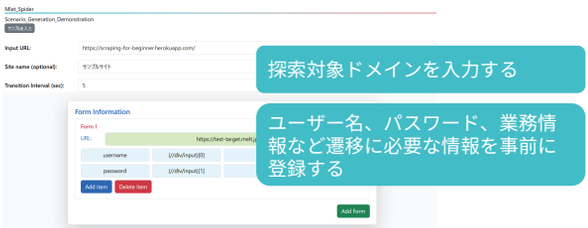
MLET. II に関わるAI活用事例

高度化するAIの力を適材適所で利用し、自動化範囲を拡大中
MLET. II と組み合わせて利用することでさらなる効率化が可能

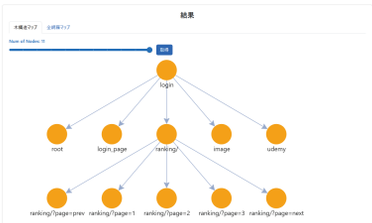
画面遷移図生成機能

テスト対象として指定したHTMLをクローリングし、
画面遷移図を自動生成。設計書として記すべき画面構成を特定

対象URLの指定



画面遷移図・画面詳細の生成

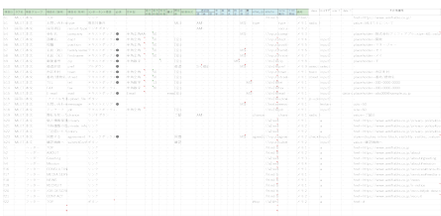


設計書メーカー/ヒーラー機能

指定したURLに対する画面設計書をAIがゼロから作成(メーカー)
不足・誤り部分自動作成(ヒーラー)

対象URL

画面設計書



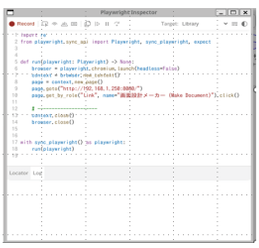
補正済画面設計書

シナリオ設計書生成機能

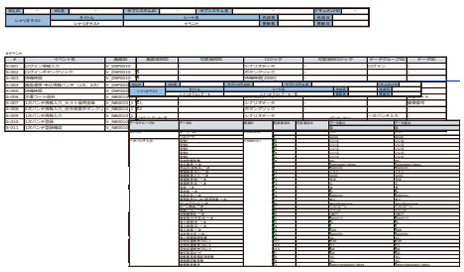
Playwrightの実行コードからMLET. II のシナリオ設計書を
生成

操作データ

実行コード



MLET. II シナリオ設計書



サービスラインナップ

AIの専門家が経験とテクノロジーで
お客さまの状況に応じた最適な課題解決への道筋を示し
効率化、品質向上を支援いたします

Solution 1 テスト工程自動化プラットフォーム MLET. II

- **設計書をインプット**として、**テスト仕様作成から検証までを自動化**
- **誰でも熟練テスター並みの観点**で網羅性の高いテスト実行が可能
- 誰でもツールをご利用いただけるようトレーニングから保守までバックアップ
- システム設計からテスト実行までのノウハウを、**精度の高いドキュメントとして残す**ことが可能

Solution 2 テストアウトソーシングサービス

- アミフィアブルのソフトウェアテストに精通したエンジニアとMLET. II が
  現状コストの80%でテストを代行し、確実で即効性のあるコスト削減を実現
- テスト自動化の過程で、システム設計書、テスト仕様書等の**ドキュメントを整備し**
  レガシー化、属人化を防止

Solution 3 コンサルティングサービス

- 現在の開発プロセスとテストの実施方法を確認し、PoCでの効果測定をふまえて
  テスト自動化に向けた最適なアプローチをご提案
- 開発ベンダーとテストチームをつなぎ、**自動化の効果を訴求しながら効果実現まで支援**
- アミフィアブルコンサルタントが、システムテスト案件に留まらずシステム構築や
  組織構築・運営支援のPMOとして参画

Solution 4 生成AI活用業務代替サービス

- **生成AIを活用**し、業務プロセスを効率化させる革新的なソリューションを提供
- 過去の知見やデータをもとに、お客様の状況に応じた**課題にフィットした実用的アウトプット**を
  AIが出力できるようカスタマイズ
- 属人化や品質のばらつきを防止し、効率化に寄与

導入事例

コスト改善事例

A社様：Web 取引管理・顧客管理システム
5年累計10億円超のテスト工数削減に向けて並走中

課題

オフショア開発の品質維持のため、新たな課題発生のたびにテスト項目を追加した結果、**人件費の高騰でコストが肥大化**。抜本的な対策が必要になっていた。

取組概要

- テストの一部アウトソーシングから開始し、徐々に自動化範囲を拡大。4年で全範囲に適応させ、5年目に内製に切り戻して効果を最大化させる計画。
- 現時点で**リグレッションテスト6%、シナリオ型機能テスト44%の工数を削減**。
- リグレッションテストでは、古いモジュールの画面表示、特定条件でのバッチ異常終了、特定時刻における動作不良を検出。品質向上にも寄与。

品質改善事例

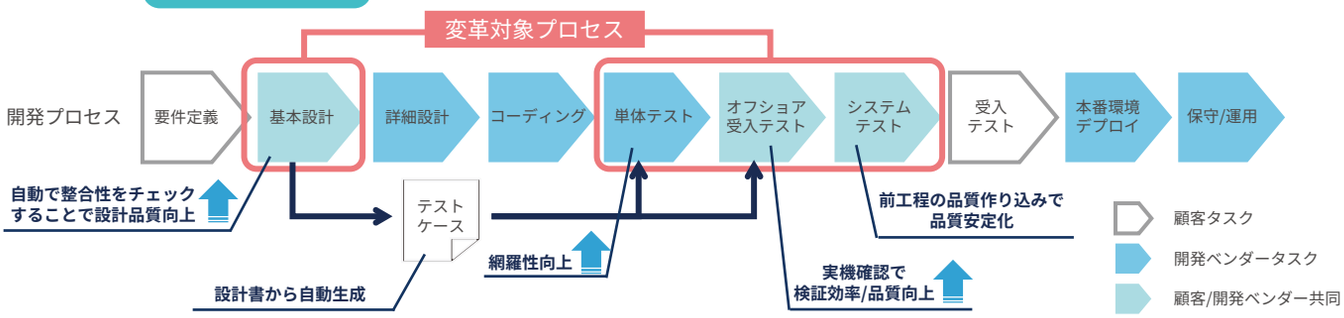
B社様：文書公開管理システム
オフショア受入テスト強化による品質向上を実現

課題

オフショアを用いた開発案件で、**受入後に顕在化する障害が増加**。**品質低下が課題**となっていたが、現地の運用が見えない中改革を進められる人員が不在。具体的な対策を講じられなかった。

取組概要

- MLET. II を利用したテスト自動化と開発プロセス変革に着手。
- 設計書不整合チェックで**画面設計書の30%の項目に誤り**があることを検知。
- 設計情書の記載不足項目の洗い出しで、元の**203%の情報量に設計情報を完備**。
- 精緻化した設計書から自動生成されるテストケースを単体テスト、オフショア受入テストで利用し、過去テストでは発覚できていなかった**『スペースのトリム制御』『最大文字数以上登録時のDB制御』等の不具合を検知**。
- 設計書の整備、前工程での網羅的テストにより品質の作りこみに成功。現在、適応システムを拡大中。



導入事例

SIer
コラボ事例

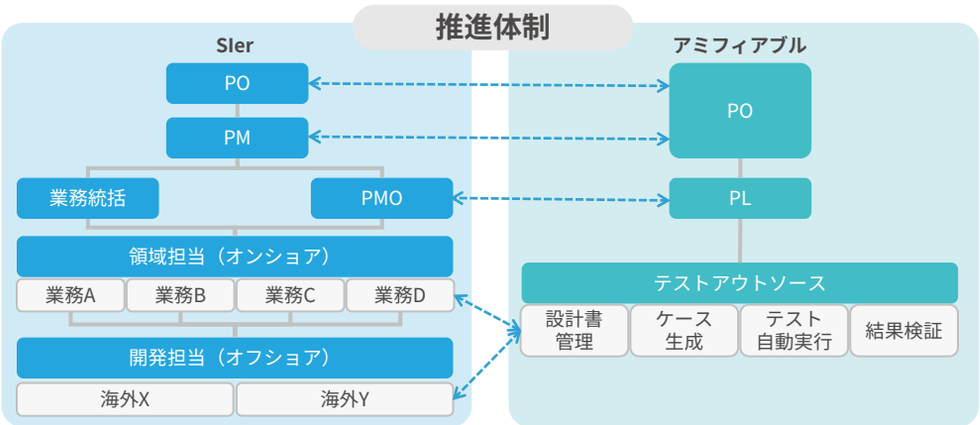
C社様：SIer傘下の複数オフショア拠点へ MLET. II を導入し工数削減/品質向上に寄与

課題

画面数、画面項目が多いシステムの更改を、SIer傘下のオフショア開発で進めていたが**スキルのばらつきにより、工数の増大、品質の低下**が起こっていた。

取組概要

- **SIer、およびオフショア開発先、双方とアミフィアブルが直接コミュニケーション**を取れる開発体制を構築。
- テストケース生成をMLET. II のテンプレートに統一、作業効率と品質レベルを底上げ。
- **単体テストは62%、結合テストは55%の工数削減、テストケース網羅率30%アップ**を計画。



生成AI
活用事例

D社様： 定期・定型ドキュメント作成における 生成AI業務効率化

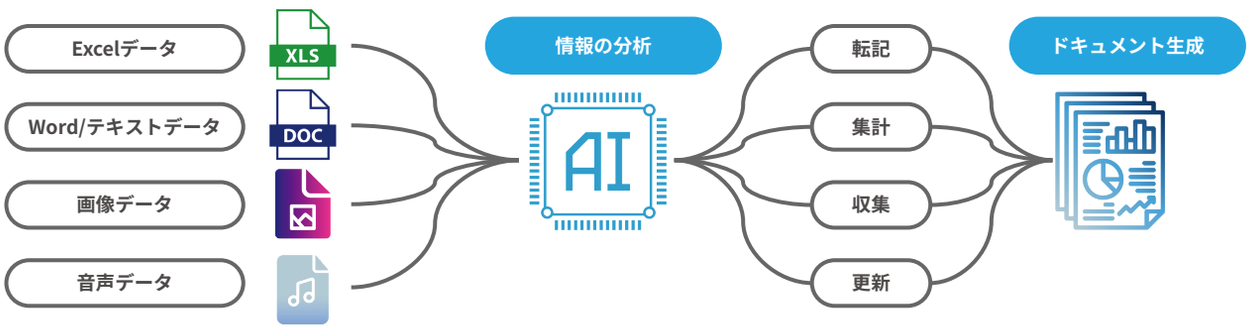
課題

組織内で、定期的に作成するドキュメント（社内報・週次レポート・報告書等）が多数存在。資料作成にあたって、情報の収集、転記、要約、集計といった個々の**事務工数が重く、作成者の負担**を生んでいた。

取組概要

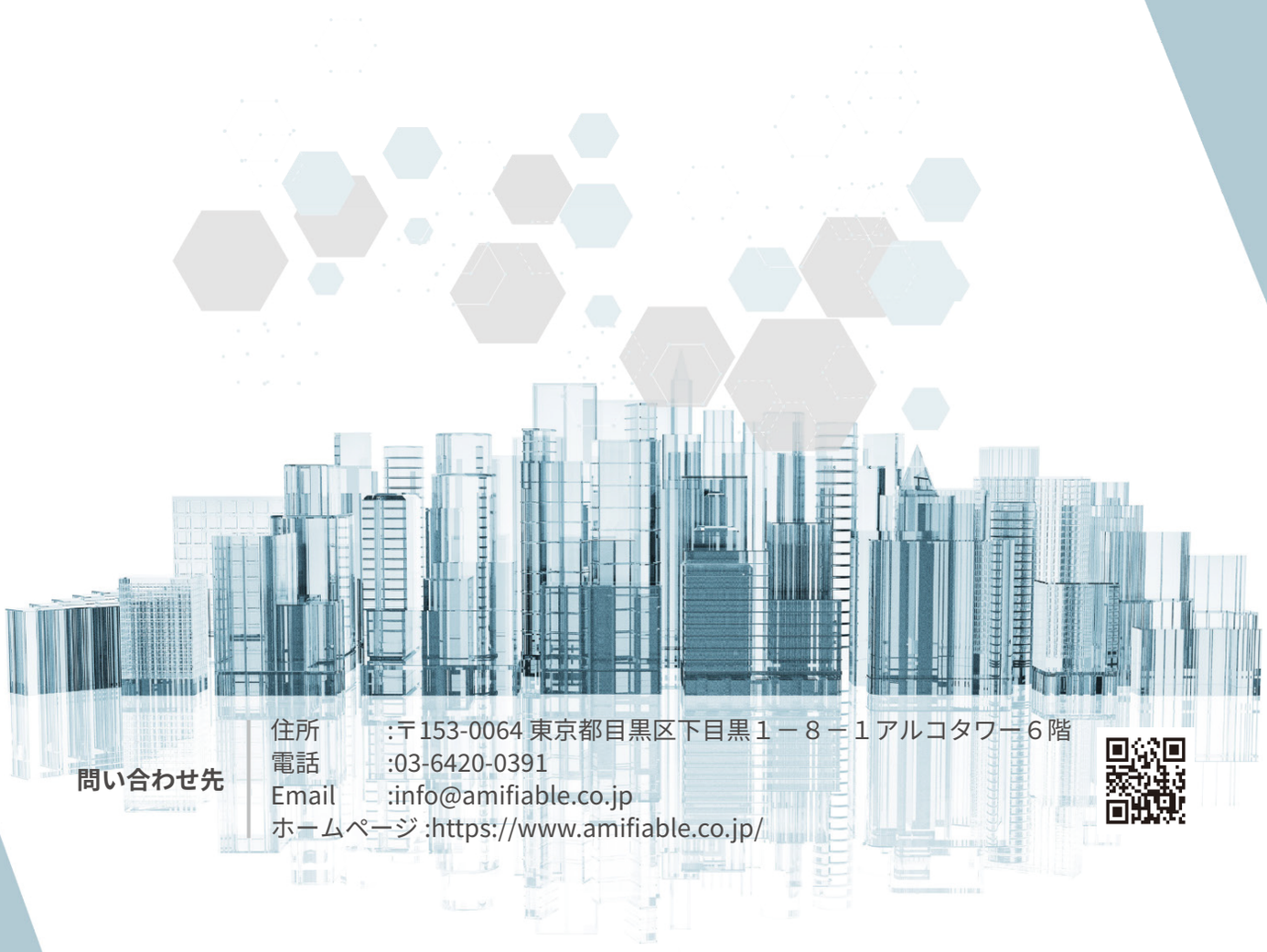
- 生成AIの力で効率化を図ることを検討。
- 現状のインプット、アウトプット、事務プロセスをふまえ、生成AIを利用した場合の**環境、実現プロセス、AIと人の役割分担を策定**。
- 削減工数、精度等検証する観点を定め、PoCで効果を計測。

ドキュメントの作成イメージ



Amifiable Inc.

アミフィアブル株式会社



問い合わせ先

住所　　:〒153-0064 東京都目黒区下目黒１－８－１アルコタワー６階
電話　　:03-6420-0391
Email　　:info@amifiable.co.jp
ホームページ :https://www.amifiable.co.jp/